

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2023年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門・教職	教育原理	必修	1年後期	32名
専門・教職	教育制度論	必修	1年前期	32名
専門・教職	幼児教育方法論	必修	2年後期	39名
専門・教職	保育内容(健康)	必修	2年前期	39名
専門・教職	保育内容(人間関係)	必修	2年前期	39名
専門・教職	保育・教職実践演習(幼稚園)	必修	2年後期	39名
専門	保育基礎1	必修	1年前期	32名
専門	保育基礎2	必修	1年後期	32名
専門	ゼミナール1	必修	2年前期	5名
専門	ゼミナール2	必修	2年後期	5名
専門(音楽科)	保育学	必修	1年前期	6名

2. 教育の理念

教育の目標については、①知識・理解、②思考・判断、③態度・興味・意欲、④技能・表現、の4つの項目について、それぞれに設定している。

教育原理では、①が「学校教育の理念・目的・意義に関する知識を習得し、教育の法規等に関し理解している。」「教育の現状と課題を理解しており、課題解決に取り組む姿勢が芽生えている。」であり、②が「保育士・幼稚園教諭としての教育的判断を養い、保育の根底を流れる教育思想などを理解している。」であり、③が「教育法規や教育思想など、保育士・幼稚園教諭として必要なことを習得した。」であり、④が「子ども観や保育思想など自ら調査・研究し、成果物を全体の前で発表し表現することができる。」である。

教育制度論では、①が「保育の目的、方法などについて基本を理解している。」「幼児教育を行う施設として、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の制度を理解している。」であり、②が「子どもを取り巻く環境を的確に理解し、適切に対処することができるよう判断力を身に付ける。」③が「保育者としての自覚、責任を持って行動することができる。」、④が「子どもにとって、安全、快適な環境を整え、子どもが遊ぶため環境を行使する技能を習得する。」である。

幼児教育方法論では、①が「これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や、教育の目標に適した指導技術を理解することができる。」であり、②が「子どもたちや状況・環境に応じて適切な教育の方法及び技術を考えることができる。」であり、③が「幼児教育の方法や、教育の目的に適した指導技術について深い関心を持つことができる。」であり、④が「教育の目的に適した指導技術を身に付けることができる。」である。

保育内容(健康)では、①が「保育における領域全体を踏まえて、領域『健康』のねらい及び内容を理解している。」「領域『健康』のねらい及び内容を踏まえて、内容の取扱いと指導上の留意

点を理解している。」であり、②が「子どもを取り巻く環境を明確に理解し、適切に対応することができるような判断力を身に付けている。」「健康についての現代的課題を理解し、必要に応じてその問題解決の方法を幼児教育に取り入れている。」であり、③が「子どもの健康に興味・関心を抱くことができている。」「保育者としての自覚や責任を持って行動している。」「学外実習や模擬授業などを通して、保育を改善する力を身に付けている。」であり、④が「子どもの健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活をつくり出す力が養えるような保育実践ができている。」「子どもにとって、安全、快適な環境を整え、子どもが遊ぶための環境を構成する情報機器及び機材の活用法を理解し保育構想に活用することができている。」である。

保育内容（人間関係）では、①が「乳幼児期の人間関係の形成過程と保育的な関わりの重要性が説明できる。」「乳幼児期の人間関係を豊かなものにする保育者の役割について説明できる。」であり、②が「子どもの側に立って思いを巡らせる共感的な思考を習得し、保育者として子どもの尊厳に基づいた肯定的で建設的な関わり（援助）を選択できる。」であり、③が「自らを振り返り、観察力や洞察力を高め、自らの保育力の向上につなげる。」であり、④が「子どもの豊かな人間関係の形成を支える保育実践ができる。」である。

このようにして、保育・教職実践演習（幼稚園）、ゼミナール、保育学、においても教育の理念に基づいた目標を4項目ごとに設定している。

3. 教育の方法

教科目によって、講義形態に変化を持たせている。

教育制度論、保育学、幼児教育方法論は、きっちりとした講義形式である。教育原理は、課題について調査・研究をおこない、それを全体に発表する形態を多く取り入れている。ゼミナールは、テーマとしては保育環境の探求・研究である。個人研究として学生個人が探求したいところを支援する方法で研究を進め、論文作成まで行い、その論文の概要を発表会で公表する。

4. 教育の成果

教育制度論は1年生前期で最初の講義科目になる。引き続いて教育原理を1年生後期で担当する。学生は入学しての初年度に保育の制度と概要について学ぶことになる。それは、保育についての厳しさも講義の中に多く含まれていることから、それほど高い評価ではないが、講義で座学での評価としては、それなりの評価であるように思われる。その成果を保育・幼児教育の各論に引き継いでいければと思う。

5. 今後の目標

2019年度から保育基礎1・2、ゼミナール1・2申請・改革され、新システムも定着してきた。幼稚園教諭・保育士資格のカリキュラムの更新（新カリキュラムへの移行）、学生数の減少により講義科目の2クラスの統合による講義時間の減少にともなう新科目の担当、など、変化が多い時であり、新しい目標を設定し、その達成のための努力が必要となっていく。また、新しい担当する科目も研鑽し、より良いものへ革新していく努力が必要である。

6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書